

令和6年度和歌山県学習到達度調査(中学校)4月調査結果概要

1 調査の概要

(1) 調査日 令和6年4月18日(木)

(2) 調査の目的

県内の中学校における生徒の学力の定着状況をきめ細かく把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における生徒への学習指導の改善・充実に役立てる。

(3) 調査内容

調査を実施した学校、生徒、教科

公立の中学校第1・2・3学年、義務教育学校後期課程第1・2・3学年、特別支援学校中学部第1・2・3学年

学年	学校数	生徒数	実施教科
中学校第1学年	115校	6,455人	国語 数学 英語
中学校第2学年	115校	6,112人	
中学校第3学年	114校	6,192人	英語※

※第3学年は、全国学力・学習状況調査にて国語・数学の調査を実施したため、4月調査では、英語のみを実施した。

2 結果の概要

【平均正答率】

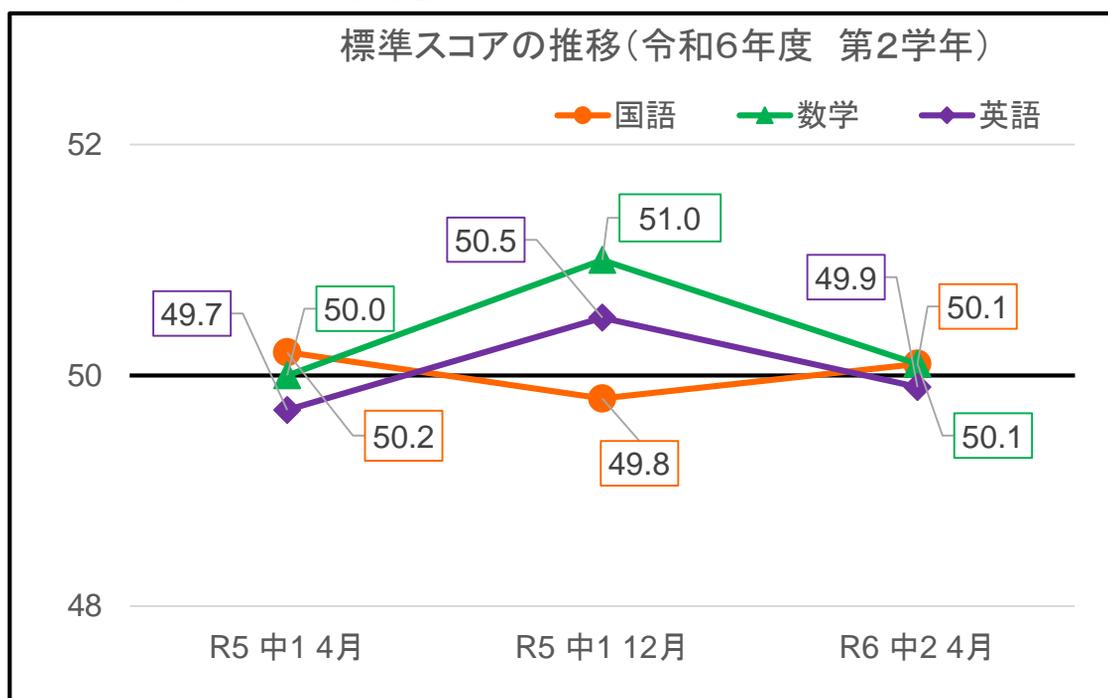
	国語			数学			英語		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
県	61.6	65.3		64.8	55.0		77.2	52.5	48.7
全国	61.3	65.1		64.4	54.7		76.8	52.7	50.9
差	+0.3	+0.2		+0.4	+0.3		+0.4	-0.2	-2.2



【標準スコア】 全国の平均正答率を50としたときの換算値

	国 語			数 学			英 語		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
R5 4月	50.2	49.1		50.0	49.5		49.7	49.7	
R5 12月	49.8	49.6	49.5	51.0	50.3	50.7	50.5	50.3	50.8
R6 4月	50.2	50.1		50.2	50.1		50.2	49.9	49.0

【同一集団における標準スコアの推移】



3 各教科の成果と課題(国語)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(1) ①	小学校で学習した漢字を正しく読んでいる。	80.3	71.2	+9.1

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(3)	情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。	69.6	66.4	+3.2

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(1)	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。	62.6	65.6	-3.0

傍線部の「すごい……」とユクが感じている前後の段落の中の表現から、ユクがウツギの絵の情景を想像していることが読み取れる。授業においては、描写等に注目させ、その効果等を理解しながら、登場人物の心情を読み取っていくことが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	43.9	50.2	-6.3
	自分の考えを明確にして書いている。	31.6	36.8	-5.2

第一段落に書いた、資料から読み取ったことを踏まえて、AとBのどちらの意見に賛成か、自分の立場と、その理由を書くことが求められている。自分の考えの理由を書く場合は、根拠となる事柄が適切であるかどうかを検討する必要がある。まず、適切な根拠とはどのようなものであるのかについて指導していくとよい。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ①	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	49.6	43.0	+6.6

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3(2)	単語について理解している。	59.2	57.7	+1.5

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(3)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。	68.8	70.1	-1.3

「この熱を。」「スケッチブックに生け捕って、熱が冷めないうちにキャンパスに落とし込む」等の表現から「僕」が実際の「鈴音」の熱量を絵に表現したいという気持ちが読み取れる。授業においては、自分が文章を読んで理解したことをもとに、他者の考えやその根拠になる事実から考えを確かなものにしていくことが大切である。日常の読書活動と結び付けていくことができるように指導していくとよい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	読み取った内容を明確にして書いている。	55.7	58.5	-2.8
	自分の考えを明確にして書いている。	59.5	60.2	-0.7

第一段落には、AとBのポスターの特徴をそれぞれ書くこと、第二段落には、第一段落で書いたことを踏まえて、AとBのどちらのポスターを掲示するとよいと思うか、自分の考えと、その理由を書くことが求められている。取り上げるポスターの特徴が、自分の考えの根拠になり得るかどうかを検討することが必要であるため、そのような活動を授業で取り入れていくとよい。

第3学年 ※第3学年は、全国学力・学習状況調査にて国語の調査を実施したため、未実施

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

3 各教科の成果と課題(数学)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2	分数×分数に関する文章題を解くために立式することができる。	55.4	49.0	+6.4

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
18(2)	4種類の中から2種類の菓子を選ぶときの選び方が何通りあるかを求めることができる。	61.7	53.5	+8.2

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
14(2)	割合について理解し、割引後の代金を求める式を選ぶことができる。	52.4	58.9	-6.5

誤答の主な原因としては、割引後の代金が問われているという題意を捉えられていないということや割合を表す小数と歩合の関係が理解できていないことなどが考えられる。授業においては、式が何を表しているのか捉えられるよう、図、式、言葉に関連づけて指導していくことが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
20(3)	もとにする量の大きさが違えば比べる量の大小と割合の大小は一致しないことを、具体的に説明することができる。	7.1	13.7	-6.6

誤答の主な原因としては、どのように説明したらよいかのわからないことなどが考えられる。表1から年度ごとのバイオエネルギーの割合を計算し、割合は2倍になっていないことを説明する方法と、バイオエネルギーの発電量がおよそ2倍になっているが、自然エネルギーの発電量もおよそ2倍になっていることから、割合は2倍になっていないことを説明する方法があることを理解させたい。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(3)	一次式の減法ができる。	55.2	42.5	+12.7

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(2)	数量の間の関係を不等式に表すことができる。	55.5	48.5	+7.0

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。	5.3	11.6	-6.3

妹は兄より3分先に家を出発しているので、兄の歩いた時間は、 $(x-3)$ 分と表される。よって、 $60x=80(x-3)$ と立式できる。立式するときには、何を x と置き、何についての方程式を立てるのか、そして一つ一つの数や文字、文字式が何を表しているのか、単位はそろっているかなどを確認するように指導していくことが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
19(2)	示されたヒストグラムから階級の幅を求めることができる。	38.1	51.2	-13.1

誤答の原因としては、階級の意味や階級の幅について理解していないことなどが考えられる。階級、階級の幅等の意味については、度数分布表やヒストグラムを用いてデータを整理・分析する活動を通して、理解を深めることが有効である。階級値、度数分布表、ヒストグラム、最頻値、中央値など、資料の活用単元でしか学習しない用語も多いので、併せて確認して知識を定着させたい。

第3学年 ※第3学年は、全国学力・学習状況調査にて数学の調査を実施したため、未実施

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
—		—	—	—

3 各教科の成果と課題(英語)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
1(5)	身近で簡単な表現を聞き、その意味を理解している。(気持ちを表す表現)	77.3	69.6	+7.7

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3	音声を聞き、活字体の小文字3文字を正しく書いている(fox)	82.9	77.1	+5.8

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(4)	身近で簡単な事柄について英文を聞き、その内容を理解している。(できることできないこと)	21.8	25.1	-3.3

誤答の原因として、助動詞canとcan'tの聞き分けが出来ていないことが考えられる。ALTやICTの活用により、自然な口調で話される英語を聞く機会を設けることが大切である。また、動詞については、自分の生活リズムに組み込まれた動作の表現について、言語活動の中で繰り返し扱う等しながら確実な定着を図るとよい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
14	インタビューシートから必要な情報を読み取り、紹介文の形式に合わせて書いている。(3人称と得意なこと)	54.0	56.4	-2.4

本問では、3人称のheとsheの使い分けができないと主語を選ぶことができない。また、“from”や“is good at ~”という表現から、インタビューシートなどの情報を使えばよいかを判断して単語を書き写す必要がある。授業においては、ペアで互いに自己紹介を行い、そこで得た相手の情報を整理し、紹介文を書く活動を行うなどが考えられる。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
9(2)	文の語順を理解し、正確に書いている。(How manyの疑問文)	53.3	45.7	+7.6

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
12	週末することについて、相手に伝わるように書いている。	52.3	45.6	+6.7

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7(2)	プールの利用案内を読み、必要な情報がどの部分にあるかを把握して、適切な箇所を選んでいる。	24.4	27.0	-2.6

多少分からない単語があっても、意味を推測しながら読み進めることが必要である。その際、「〇〇を示している箇所に下線を引いてみよう」といった活動を取り入れることによって、自分で読み進める力を身に付けさせることができる。必要な情報を読み取る活動では、必要な情報と不要な情報を整理しながら読み取らせることが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
8(1)	メールを読み、その内容を理解している。	64.9	69.6	-4.7

誤答の原因として、メール文中の“This is a picture of the family and me.”の“and me”が読み取れていなかったことが考えられる。“I live with ~.”から、家族構成を読み取ったり、“I sometimes play tennis with him.”という文章からRyotaがテニスをしていることを把握したりするなど、単語等を手がかりに、本文の概要を捉えるよう指導していくことが大切である。

第3学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(1) ②	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(lookを用いたSVCの文)	70.6	69.1	+1.5

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(1) ④	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(最上級)	72.1	70.8	+1.3

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
8(2)	メールを読み、代名詞itが指す内容を理解している。	55.5	63.2	-7.7

本問では、代名詞itが指す内容を理解するために、前の文章に着目することが大切である。誤答の原因としては、“I want to ~”の文の内容を読み取ることができなかったことが考えられる。授業において、意味のまとまりごとに区切って英文を読み進めるなどの工夫も考えられる。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
10(1)	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(部員数をたずねる)	8.2	10.7	-2.5

“Twenty members.”の一文の内容を推測し、「何人いるのか」をたずねるために、how manyを使うことに気付くこと、how manyの後ろは疑問文の形となることを把握していることなどが重要である。授業において、教科書にある一文を空欄にして、そこに入る内容を推測させる工夫も考えられる。